

かしの木

第 45 号

2010年7月号

発行 さくらまち高齢者福祉事業
かしの木編集委員会

〒184-0005

東京都小金井市桜町1-2-24

電話 042-381-1234

新役員◇よろしく お願い致します!

「今」思うこと

桜町聖ヨハネホーム 新園長 石山 裕明



Sr.相松幸子前園長の後を引き継ぎ、4月1日をもって桜町聖ヨハネホーム園長に就任しました。聖ヨハネ会の理念でもある「ボン・サマリタン」の心をもって「ヨハネらしさ」を大切にホームの経営をするとともに、桜町高齢者在宅サービスセンター長と本町高齢者在宅サービスセンター長を副園長としたことにより、在宅部門である両センターと一体となって地域の高齢福祉ニーズにも応えてゆく所存です。

今年度、ホームは基本的ケアの充実と人事育成制度の確立と定着を目標としました。基本的ケア、食事介護、入浴介護、排泄介護の3大介護を大切に、「利用者が大切にされていると思えるケアをすること」を目標としました。その実現のために、「愛は忍耐強く、愛は情け深い」（1コリント13・4）を基本にした行動指針である ①利用者のプライドを傷つけない丁寧な語りかけ ②やさしく温かみのある対応 ③穏やかな雰囲気大切にされた誠実なケア ④人を愛する心で必要に応える ⑤謙虚で品位のある接し方 を確実に実施することに力を注ぎたいと思っています。

先日「マナー」についての研修に参加する機会がありました。そこでは、マナーとは一般的な「守らないと自分が恥をかき常識的社会的礼儀作法」ではなく、「相手を大切に思う気持ちを、場面や状況に応じて適切に表現すること」とされ、サービスを受ける人を主体としたものとして定義されています。そして、この意味のマナーを表現する

言葉の遣い方、身のこなし方などを普段に身に付けるためには、練習が必要だと感じました。いくら専門的な知識、技術を身に付けても、相手を思う心で接しなければ、そして言葉や態度・行動というコミュニケーションで表現できなければ、相手には伝わらないからです。先の行動指針がまさに私たちのヨハネらしさを伝え、マナーを実現する方法であると確信してきました。

私の今年度の個人的テーマは「コミュニケーション」だと考えています。ご利用者とたくさんコミュニケーションすること、職員と話す機会を多くもつことと考えています。その時、「相手の話を良く聴くこと」と同時に「話したことが伝わったことではなく、伝わったことが伝わったことになる」を肝に銘じながらコミュニケーションをしようと思っています。

目次

新役員 園長 石山 裕明	1P
” 副園長 三浦 和行	2P
” 副園長 藤井 律治	3P
深大寺・神代植物公園 遠足	4P~5P
新役員 顧問 シスター相松 幸子	6P
シスター相松 とともに	7P
お知らせ等	8P

新役員◇よろしく お願い致します！

「今こそ、人づくり、施設づくりを進めよう」

桜町聖ヨハネホーム 新副園長
兼務 桜町高齢者在宅サービスセンター長 三浦 和行

聖ヨハネ会高齢者福祉事業は、ホーム・センターの管理体制をより強固なつながりとするともに施設間の連携、協働を密接に進めることをめざして新たな管理者体制でスタートしました。シスター相松前園長は、顧問として就任しており職員にとって大きな安心と支えであることは変わりありません。

そこで、私が新体制のもとで役割りと考えていることは、高齢者福祉部門を発展させ、将来のビジョンにつなげるために、先頭切って乗り出していくことです。利用者のために、職員が一体となってヨハネの理念を貫くことができるように活路を開いていきたいと考えています。

現在進めている中長期経営改善計画は、行動力と感性ある知識技術力のバランスの取れた職員体制を整えるとともに、職員の意欲向上につながる透明性のある人事管理システムを目指し、事業を次世代に受け継ぐために推進しています。単に現行事業を継続するだけでなく、将来を見据えた事業展開についても積極的に可能性を追求していくことになります。まずは職員の処遇改善を進め、利用者サービスの環境を整え、同時に質の高いサービスを作り、地域のニーズに応える新しい事業を行うことです。このことは、我々の使命であると考えます。

介護保険制度は、そもそも初めから財源論でスタートした制度であり、改定のたびに介護報酬に翻弄され、市場原理のもとに優勝劣敗に駆り立てられ、閉塞的状況に追い込まれているが、これで良いとは思いません。介護保険の正体、そしてその先にある大切なものをしっかりとみつめ、福祉実践者としてのやりがいや働きがいを見つけていかなければなりません。高齢者の老後を安心して暮らすという願い、介護サービスとは何なのか、

利用者のために何をするのか、はっきりとさせて働かなければならない、と考えています。

もちろんのこと、闇雲に事を進めるといってではなく、そのときそのときの時代の要請を受け止めて、地域にとって必要と思われる事業を創設していくことを良しとしてきた聖ヨハネ会の心を奮立たせ、その想いを地域にしっかりと根付かせて行かなければなりません。理念は具体的なサービスのうえに現わされることにより、皆さんに分かっていただくことになるのです。

職員は、日々の業務について多くの困難を抱えながらよく奮闘しており、その健闘を称えるとともに、ヨハネのサービスを利用していただくことによって皆さんに少しでも幸せになってもらえるように私自身努力を重ねていきたいと考えています。目標に到達するためには、どう進めるか、何時までに何をするかという過程を大切にしていきます。結果は、始めからあるのではなく、努力次第だからです。今後とも皆様のご支援ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



談笑する石山新園長と三浦新副園長と職員

「ホームとセンターの宝とは…」

桜町聖ヨハネホーム 新副園長
兼務 本町高齢者在宅サービスセンター長 藤井 律治

この4月より桜町聖ヨハネホームの副園長に就任いたしました。現在の本町高齢者在宅サービスセンター長を兼務しながらの副園長就任となりましたので、石山裕明新園長とヨハネホームを側面から支えるのが主な任務になります。どうぞ宜しくお願いいたします。

ところで突然ですがホームとセンターの宝とは何だと思われますか…？

ホームとセンターの宝とはまずご利用されている高齢者一人一人です。私たちは、この高齢者のお一人一人の為にこの職場に呼ばれ高齢者福祉に関わる介護・相談・看護・栄養・事務などの尊い仕事をさせて頂いています。

何故そう言い切れるのか…実は私の幼稚園時代の園長先生（イエズス会宣教師アルバレス神父様）が、今も尚ご活躍でその園長先生を訪問した時に、『教会の宝は何だと思えますか？』と尋ねられた事があり、答えに窮していると笑顔で、『それは、子ども！高齢者！病人！障がい者です！』と教わった事があるからです。

私たちは、この宝のうちの1つに日々関われる尊い仕事を頂いています。心を込めて仕事をしたいものです。そしてお一人お一人を大切にすることでなく特に様々な困難により援助を必要として

おられる方には惜しみなく最善を尽くすことこそがヨハネの使命ではないでしょうか。

管理者の立場として、もう一つの大切な宝とは、現場で一生懸命に働いている職員です。お一人お一人の利用者様を大切にできる職員は施設のかけがいのない財産です。

ヨハネ会の高齢福祉部門ではホーム開設以来の生え抜きの勤続年数24年を超える職員が5名いますし、勤続年数10年を超える職員も多数います。永くヨハネの職場で働き続ける事は、体力的にも精神的にも決して楽な事ではないと思えます。それにも関わらず今日も高齢者の方々へ変わらない態度で現場に従事している職員がいます。

管理者としてこの二つの宝、高齢者の皆様に万全を尽くすのは言うまでもないことですが、職員一人ひとりに責任を持ち、働き甲斐のある職場で働きやすい職場を築かなければなりません。ホーム・センターの職員を合わせると常勤・非常勤を合わせ、いつの間にか約230名の大所帯となっています。

これまでヨハネホームとセンターは多くのボランティアと支援者に支えられてきていますがまた実に多くの人の祈りにも支えられています。

新任職員も中堅もベテランも管理職も誇りの持てるヨハネの仕事が出来るよう一丸となって進んで行きたいものです。



前園長Sr相松、Sr菅田の金祝で挨拶する三浦・藤井新副園長



神代植物公園◇バラ園へ行ってきました

桜町センター

H22.5/17~29

5月中旬から2週間、午後の時間を利用して、神代植物公園へ行ってきました。晴れた日は大変混雑していましたが、「バラの花々がほんとうにきれい」「何度見ても飽きない」と、多くのご利用者の方にご好評いただきました。

ボランティアやご家族の方、他部署職員の方にご協力いただき、2週間事故なく終えることができました。ありがとうございました。



いつも、仲の良いお二方です！



ご夫婦で参加してくださいました。



人気のある曜日は他の事業所も集まるので大変混雑します。この日は金曜日。大勢の方が来て盛況でした。



園内は広い為、車イスに乗って頂き散策しました。日差しが強く、気温も上昇する為に水分補給が必要になります。二か所、休息する場所を設けて対応致しました。ポカリスエットや紅茶がとても美味しく感じます。

バラを背景にして写真を撮りパチリ！赤いバラや黄色いバラと、好みの色のバラをなるべく選んでもらっています。素敵な笑顔で皆さんポーズをとって下さいます。



きれいに咲き揃うバラの花。赤や黄色や紫など様々な色で出迎えてくれました。美智子皇后様の為に作られたバラの花は大人気でした。

本町センター

H22. 5/17~22

5月17日(月)~22日(土)の1週間をかけて、本町センターは神代植物公園のバラ園散策に行きました。20日(木)は雨で残念ながら中止になりましたが、その他は無事に散策することが出来ました。

日の光に照らされたバラは、鮮やかな赤色や黄色で人々を迎えてくれました。混雑している日もあれば、雨が途中から降り出した日もあり、予定通りに行かないこともありましたが、バラ園に入ると、ご利用者様から自然と笑顔がこぼれる楽しい行事となりました。

協力して下さった御家族やボランティアの皆様には、この場をかりて感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

桜町センター

介護予防通所介護

H22.5/11~17

介護予防で最高齢97歳の高原さん(右下)と今年の5月から利用開始、お仲間になられた小川さん(左)青空の下、皆でにっこり！

深大寺そばを食べにいきました。



矢田部茶屋の「天ぷらそば」

聖ヨハネホーム

H22. 5/21、26



毎年恒例の「深大寺」散策、もちろん「深大寺そば」もいただきましたヨ。

今年は、朝の連続ドラマ「ゲゲゲの女房」のご当地とあって一層賑やかでした。

ミニコラム

"100歳さん、今日も来て下さってありがとう"

センターをご利用くださる、お元気な100歳以上の方をご紹介します。

今回は花木房子様(桜町センターご利用者102歳)です。

Qお元気の秘訣はなんですか

Aいろいろな事をくどくど考えない。

悲しいことを悲しいと思わないこと

Qセンターでの楽しみはなんですか

A皆さんとお話できること



《次女様よりお母様へのコメント》

毎日穏やかに過ごしてくれている。お箸を使って一人で食事を食べてくれたり、ヘルパーさんにいつも愛想よく、ねぎらいや感謝の気持ちを忘れない点はすばらしいことだと思います。

「ヨハネらしさを生きて」

高齢福祉部門 新顧問 相松 幸子 (前園長)

この道を歩んでいつしか23年も経ってしまいました。この度、桜町聖ヨハネホーム施設長を退任にあたり過去を省みて、公私にわたり何と多くの方々にお世話になったことか、皆さまの温情豊かなご支援に励まされ、ご助力をいただき心から感謝申し上げます。新任の石山施設長の前途に神の祝福と恩恵を祈るとともに、これからの歩みを力強く支えてくださいますよう、皆様をお願いいたします。

桜町聖ヨハネホームという使徒職の場で、スタッフの皆さんと共通の思いを分かち合い、兄弟姉妹の絆に結ばれて私の人生が刻まれ、ヨハネファミリーとの出会いは、私の人生の宝なのです。神が愛してやまない、いと小さき者、弱い立場にある虚弱な高齢者の方々に仕え、職員はこぞって、愛そのものになって生きるという素晴らしい使命を恵みとしていただいております。重度の認知障害をもち、不安と混乱の中にいる人や、ハンディのある高齢者の方々が、「大切にされ愛され」ている



ことを味わい、一人ひとりに「幸いがあるように」という熱い思いのこめられたケアの実践は、私たち自身を生かし、愛に成長させる大きな力かもしれません。

20世紀の偉大な神学者であるティヤール・ド・シャルダンの次のことばは、私たちの人生にいちばん大切なことを語りかけています。

「人生にはただ一つの義務しかない。

それは、愛することを学ぶことだ。

人生にはただ一つの幸せしかない。

それは、愛することを知ることだ。」

次世代に伝えていきたいことは、「愛を生きる力」を育てる「心の教育」です。

聖ヨハネホーム、桜町・本町センターがヨハネらしさの香りに満ちた場となり、そこを訪れる人々の心に平和と喜びが満ち溢れるように、万感の思いをこめて皆様に感謝。



シスター相松と共に

思い出のアルバム

1986年～ 設立の頃

シスター相松のすずやかなお祈りとやさしい微笑につつまれて、ホームの23年間の、おだやかに、楽しく過ぎていきました。



一泊旅行記念撮影



ホーム前のグラウンドで運動会



ソーメン流し

この頃は、利用者の皆様もお達者で、シスター相松とともに一泊旅行にも行きました。運動会も!

1990年～ 充実の10年

桜町・本町両センターの開設、ショートステイ室増築、訪問入浴開始、阪神大震災被災の姉妹施設あそか苑への応援職員派遣、海外研修、終末ケアの指導など、内外に事業充実のため活躍されました。



桜町センター独自送迎開始



ボランティア懇談会にて



センターご利用者と談笑



本町センター1998年開設



ショートステイ室増築



お誕生日の花束を



クリスマス会ハンドベル演奏



あそか苑さんと姉妹施設調印

2000年～ 21世紀へ

介護保険制度が開始され、介護福祉事業費の縮小と事業内容の個別化細分化が求められるなかで、そこに埋没せず、喫茶室リリーの開設、クックチルド導入、バックステア、ヨハネらしさとは何かなどシスター相松ならではの職員に対する愛に包まれた啓発活動が行われました。



シスター相松 消防隊長



観月会



ご挨拶



配食サービス開始



毎年恒例、納涼祭

さくらまち高齢福祉事業等 関係施設のご案内



♪ 桜町聖ヨハネホーム (特別養護老人ホーム・ショートステイ)	TEL 042-381-1234 FAX 042-381-1219
♪ 桜町高齢者在宅サービスセンター (デイサービス・訪問介護・訪問入浴・栄養事業部・居宅介護支援)	TEL 042-381-0006 FAX 042-387-2324
♪ 小金井きた地域包括支援センター	TEL 042-388-2440 FAX 042-387-2324
♪ 本町高齢者在宅サービスセンター (デイサービス・市の配食サービス)	TEL 042-388-8011 FAX 042-388-8014
♪ 小金井ケアビレッジ (生活寮)	TEL 042-384-2323
♪ 桜町ケアビレッジ	TEL 042-315-3514
♪ 小金井聖ヨハネワークセンター	TEL 042-315-2238
♪ 桜町病院	TEL 042-383-4111
♪ 聖ヨハネホスピス	TEL 042-388-2888

今後の予定

- ヨハネホーム -
 - 7月 納涼祭
 - 8月 平和慰霊祭
 - 9月 敬老会
- 桜町センター -
 - 8月 夏まつり (おみこし、かき氷)
 - 9月 敬老会
お楽しみ測定
 - 10月 運動会
- 本町センター -
 - 8月 本町センター納涼祭
 - 9月 敬老会

編集後記

夏が来れば思い出す 遙かな尾瀬 遠い空
昭和24年にNHKラジオ番組『ラジオ歌謡』
で流れた『夏の思い出』は、瞬く間に日本人の
心に響いていったといえます。デイサービスでは、
この曲をご利用者の皆様と唄う事が多いです。
激動の昭和を生き抜いた皆様が高らかに、そし
て穏やかな表情で歌う姿を見て、私は生きる強
さと優しさを学びました。人生の諸先輩方が、
笑顔で明るくいられるように少しでもお手伝い
出来ればと改めて感じます。 (T・Y)

編集委員長 中條洋子 (桜町聖ヨハネホーム)
編集委員 東 陽子 (桜町センター)
" 吉田貴夫 (本町センター)